

令和5年度中丹文化芸術プロジェクト
文化庁京都移転記念事業～おやこで伝統文化にふれるプロジェクト～

茂山狂言鑑笑会

プログラム

1 狂言のおはなし
茂山千五郎

2 蝸牛

山伏 茂山宗彦
主人 鈴木実
太郎冠者 茂山逸平

3 附子

太郎冠者 茂山千五郎
主人 柴田鉄平
次郎冠者 鈴木実



伝統文化を

楽

しむ

おやこでも
楽しんでいただけます。

入場無料
(自由席)

令和5年

11月25日(土)

14:00開演 (開場 13:30)

京都府中丹文化会館

主催/京都府、(公財)京都府中丹文化事業団

招待券配布

※入場招待券が必要です

京都府中丹広域振興局(舞鶴総合庁舎受付)、3市各市役所、
京都府中丹文化会館、中丹文化会館各プレイガイドほか

入場招待券は、「郵便往復はがき」「中丹文化会館サイト」からでも
お申込みいただけます。詳細は裏面をご覧ください。

※未就学児の入場はご遠慮ください。

※駐車場に限りがあります。乗り合せの上お越しください。



<https://www.chutan.or.jp/>

お問合せ 京都府中丹文化会館

〒623-0005 綾部市里町久田 21-20 ☎(0773)42-7705

演 目

蝸牛 (かぎゅう)

長命の祖父(おおじ)をもった主人が、カタツムリを食べさせると長生きをするという噂を聞いて、太郎冠者に取りに行かせます。しかし太郎冠者はカタツムリをまだ見たことがありません。そこで主人にカタツムリの特徴を教えてもらい藪へ探しに行きます。するとそこにいたのは、修行を終えて山から帰る途中に昼寝をしていた山伏。その山伏の扮装が教わったカタツムリの格好に一致したため、太郎冠者は山伏をカタツムリだと思い込み連れて帰ろうとしますが・・・

山伏の扮装と蝸牛(カタツムリ)の姿が似ているという発想が面白く、また扮装が一致するという山伏の説明に納得する太郎冠者のとぼけた仕草が見所のひとつです。



附子 (ぶす)

山一つ向うまで出かける主人は、太郎冠者と次郎冠者に留守番を言いつけます。主人は二人に桶を見せ、この中には附子という毒が入っていて、その方から吹く風にあたっただけで死んでしまうくらいだから、絶対に近づかないようにと言って出かけます。しかし、だめだと言われると、やってみたくするのが人情。二人はこわごわ桶に近づき、中をのぞき込みます。すると、中身は附子ではなく、おいしそうな砂糖だったのです。二人は我慢できず、つい砂糖を口にしてしまい、とうとう全部たいらげてしまいます。そして、言い訳のために主人の秘蔵の掛け軸や、天目茶碗をこわして、大声で泣きながら主人を待ちます。驚き怒る主人に、二人は訳を話すが・・・

一休さんの頓知ばなしとしても登場する有名な狂言です。



出 演



茂山千五郎



茂山宗彦



茂山逸平



鈴木実



柴田鉄平

入場招待券の入手方法 ①直接窓口で受け取り ②「郵便往復はがき」申込み ③「インターネット」申込み

① 直接窓口で受け取り (無料で配布します)

京都府中丹広域振興局(舞鶴総合庁舎受付)、3市各市役所、京都府中丹文化会館、中丹文化会館各プレイガイド

② 「郵便往復はがき」で申し込む 往復はがき1枚で2名様まで申込みます・1名様1枚に限りです。

「郵便往復はがき」(私製を除く)に以下を記入してお申し込みください。

【往信用裏面】① 郵便番号 ② 住所 ③ 氏名 ④ 電話番号 ⑤ 観覧希望人数(1人か2人)

【返信用表面】① 郵便番号 ② 住所 ③ 氏名

【返信用裏面】何も書かないでください。(招待券を印刷して返送します。)

○あて先：〒623-0005 綾部市里町久田21-20 京都府中丹文化会館「茂山狂言鑑笑会」係

○募集期間：11月15日(水)必着分まで

※「郵便往復はがき」以外での応募や、ご記入に不備があった場合は無効になります。

③ 「中丹文化会館WEBサイト」から申し込む

<https://www.chutan.or.jp>の「茂山狂言鑑笑会」のページからお申し込みください。



※ 未就学児のご入場はご遠慮ください。

※ 入場招待券が予定の配布数に達した場合、締め切り前でも配布を終了する場合がございます。